

社 会 資 本 総 合 整 備 計 画

神戸電鉄市場駅・櫛山駅周辺地区都市再生整備計画

平成 2 3 年 3 月 2 8 日

兵 庫 県 小 野 市

都市再生整備計画(第5回変更)

神戸電鉄市場駅・櫛山駅周辺地区

兵庫県 小野市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ひょうごけん 兵庫県	市町村名	お の し 小野市	地区名	こうべでんでついちばさき かしや駅周辺地区 神戸電鉄市場駅・榎山駅周辺地区	面積	448 ha								
計画期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度	交付期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度

目標

大目標：駅周辺と市東側玄関口の環境整備を行うことによる交通便利性の向上と周辺地域の活性化

目標①地域の財産である鉄道(公共交通)駅周辺及び工業団地周辺の環境整備を行うことにより、観光客・市民の快適性の向上及び地域の活性化を図る。

目標②豊かな自然を活用したレクリエーション施設、安らぎの環境を整備することにより、自然との共生等水や緑を生かしたまちづくりを推進する。

目標③住民参画の環境整備を行うことにより、住民自らが創造していくまちづくりの推進を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・神戸電鉄市場駅・榎山駅周辺地区は、市南東に位置し、加古川沿いの平野とこれを取り巻く丘陵地、山地から構成されている。三木市との境界付近を東西に走る山陽自動車道、三木小野インターチェンジ東側の丘陵地には小野工業団地、小野流通業務団地が整備されている。工業団地の北側の丘陵地では、兵庫県により(仮称)小野長寿の郷構想が計画され、多極的なエリアが形成されようとしている。また、地域の西部を国道175号が南北に通るほか、主要地方道加古川小野線が中心市街地方面に連絡している。微増を続けてきた地区の人口も、モータリゼーションの進行、産業構造の変更等年々減少する鉄道利用者数と共に近い将来の減少が予想され、周辺地域の賑わいも失われつつある。

・小野市総合計画において、当地区は、先端産業機能の導入・育成を図るとともに、広域的サービスの導入・強化を図り、優れた居住機能、生活支援機能等を備えた魅力ある都市型生活空間を創生する地区、地域産業の新しい展開や先端技術の導入を図るとともに、流通業務機能等の強化を図るとして位置付けられている。

・昭和61年には工業団地が、平成3年には流通業務団地がそれぞれ市街化区域に編入されている。

・当地区には、(仮称)小野長寿の郷構想が計画されているが、具体的な事業計画を策定するに至らず、周辺の都市基盤整備は留保されたままである。

・平成16年度からは、市場地区地域づくり協議会が設立され、住民参加のまちづくり機運が盛り上がっているところである。

・都市再生整備計画の策定にあたり、上記地域づくり協議会において意見交換を行った。

課題

当地区は、地域資源としての公共交通機関である鉄道(神戸電鉄)及び、山陽自動車道三木小野インターチェンジ付近に存するという好立地を活かした賑わいのあるまちづくりを進めることが課題である。また、近年は、人口減少、高齢化が進んでおり、地域コミュニティの活力の低下が懸念される。このため、市民生活を安定させながら地域を活性化していくためには、地域住民が自ら創造していくまちづくりの推進も今後の課題といえる。

・幹線道路の整備を促進して、中心市街地や多極的なエリア、他地域との連携を強化することが求められている。

・神戸電鉄は、小野駅以外の駅施設及び周辺整備が不備であり、駅機能が十分活用されていない。交通環境整備を推進し、利便性、快適性を向上するとともに、地域間交流、集落間交流の場としての地域コミュニティの核施設が必要である。

・飽和状態(充足率100%)となっている工業団地の拡張が必要である。

・市の東の玄関口としてふさわしい自然を活かした景観整備が必要である。

・恵まれた自然環境を有しているが、地域資源として有効に活用されていないのが実情である。里山や清流を地域の誇りとして、内外に発信するための整備を推進し、地区住民主体で管理を行う体制の整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

小野の明日への活力を育む市場の丘

・小野市総合計画において、本地区周辺は、「(仮称)小野長寿の郷構想として、複合新都市を形成する地区」「自然環境、交通の利便性など優れた立地条件を活かした工業団地、流通業務団地の機能を拡充すべき地区」「公共交通の利用増進を図るため、沿線開発や観光レクリエーション施設の整備を進めると共に、駅前広場、駐車場、鉄道駅舎を利用したコミュニティ空間の創造など、駅周辺の整備を図る地区」等と位置付けられている。

・小野市都市計画マスタープランにおいて、本地区周辺は、「里山の豊かな自然資源を保全するとともに、中心市街地を補完する多様な都市機能の充実を図り、小野の明日への活力を育むエリアの創造を目標とする。」とされている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. コミュニティホール等の団体利用回数	回／年	市場地区のまちづくり活動としてのコミュニティホール等利用回数	周辺地域の団体が最低月2回は、コミュニティホール等を利用することを目標とし、まちづくり活動の推進(発展)を図る。	0	16	24	22
2. 施設利用者の満足度	%	駅周辺施設等利用者の満足度(満足度アンケートによる)	駅周辺及び匠台周辺の環境整備により、利用者及び周辺住民の満足度を向上させる。利用者の6割以上が満足する環境めざす。	10	16	60	22
3. 工業団地周辺施設等利用者の満足度	%	工業団地周辺施設の利用及び市境の景観に対する満足度(満足度アンケートによる)	工業団地周辺の環境整備及び市境の景観整備により、利用者及び周辺住民の満足度を向上させる。利用者の6割以上が満足する環境めざす。	10	16	60	22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1(交通環境の改善) ・鉄道駅利用者(市民、観光客)の利便性の向上を図るため、駅舎及び駅前広場等を整備し、安心安全で快適な駅前空間づくりを行う。 ・歩行者(市民、観光客)の快適性の向上、交通安全性の向上を図るため、道路照明灯を整備する。		地域生活基盤施設(基幹事業／広場、自転車駐車場、情報板) 高質空間形成施設(基幹事業／緑化施設等)
整備方針2(自然を生かした環境整備) ・ビオトープ(いちば水辺の楽校)、里山等の豊かな自然を活用するための拠点ともなる公園を整備することにより、安らぎの空間づくりを行うと共に、地元住民自ら整備、管理することができる環境、体制づくりを行う。		公園(基幹事業)
整備方針3(住民参画の都市基盤整備及び景観整備の推進) ・住民主体、参加のまちづくりの推進と地域住民の交流のために、まちづくりの拠点として駅にコミュニティ交流施設を設置すると共に地元住民が維持管理できる体制を整える。 ・愛着のあるまちなみの形成と住民参加のまちづくりを推進するため、当市の東側玄関口に、ガーデニングボランティアが提案・管理を行う緑化施設を配置した景観整備を行う。		地域創造支援事業(提案事業／コミュニティホール等) 高質空間形成施設(基幹事業／緑化施設等) 小野市農産物特産品活用型地域交流施設整備事業(関連事業／コミュニティホール等)
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地域では、地域の人づくり、まちづくり、輪づくり等地域のことは地域で考えようと、平成16年度に市場地区地域づくり協議会が設立され、地域の活性化に積極に取り組んでいる。活動の一つとして協議会と地元小学校との共同事業、「市場水辺の楽校推進部」を発足し、子どもたち、保護者、教職員、推進委員が一体となり、山田川の環境保全、川遊び、草刈・清掃等地区の住民参加による様々なイベントを開催している。 また、市民参画による「ガーデニングシティおの」の推進を図るため、公園の花壇や駅周辺、橋など公共施設に植栽や植栽の維持管理を行っているガーデニングボランティアの活動も引き続き拡大していく。平成16年度には、ガーデニングボランティアが苗木を育成するための育苗施設を設置し、自らが育苗した苗を公共施設等に植栽する等活動は活発化している。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、市役所と地域のボランティア団体、地域のまちづくり協議会が協働して、毎年、事業成果についての評価や事業の進め方の改善について検証する。その結果については、随時市民に情報公開する。		

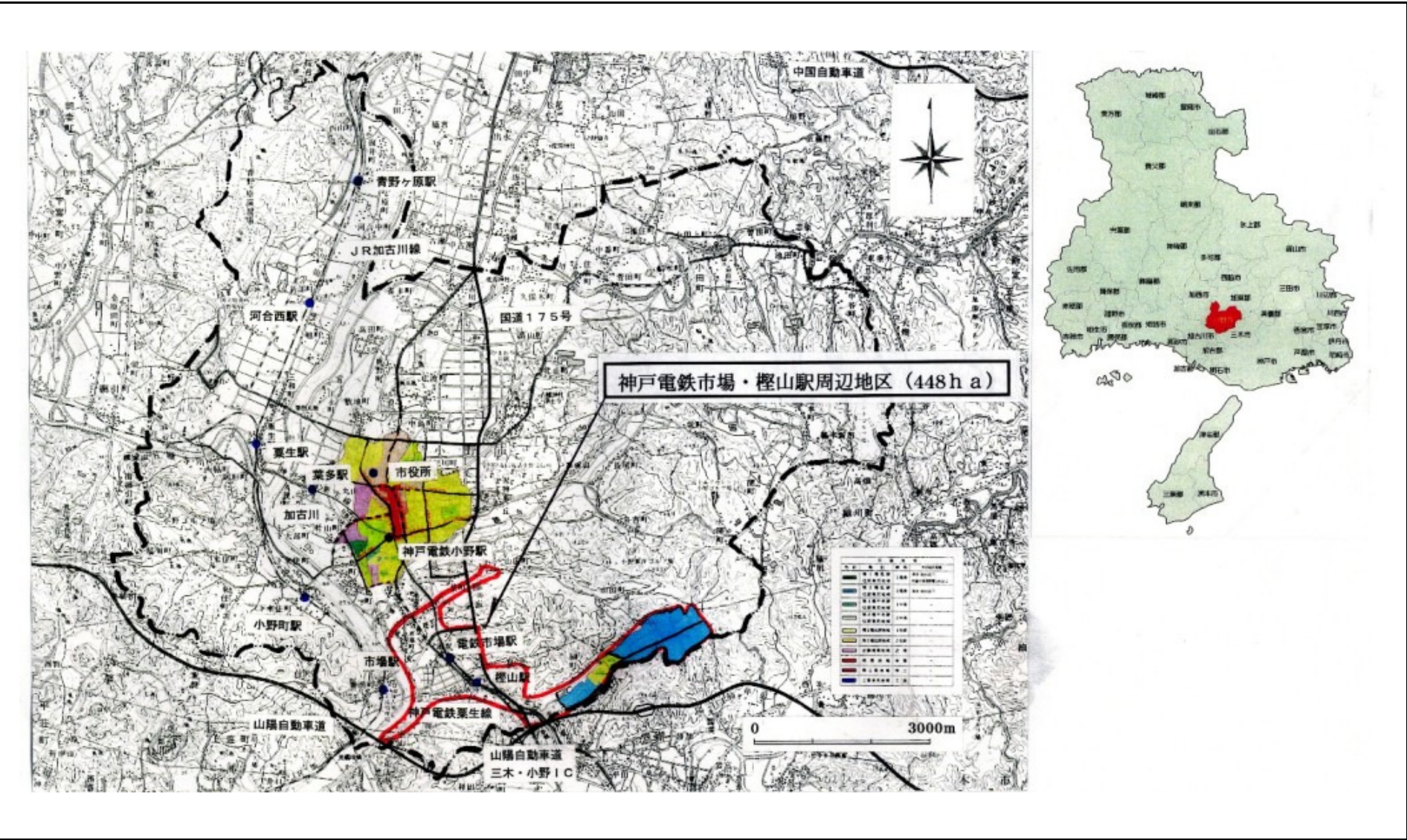
交付対象事業費	350	交付限度額	140	国費率	0.4
---------	-----	-------	-----	-----	-----

(金額の単位は百万円)

[illegible]

都市再生整備計画の区域

神戸電鉄市場駅・榎山駅周辺地区(兵庫県小野市)	面積	448 ha	区域	市場町、榎山町、榊町、山田町、池尻町、育ヶ丘町、匠台の各一部
-------------------------	----	--------	----	--------------------------------



神戸電鉄市場駅・榎山駅周辺地区(兵庫県小野市) 整備方針概要図

目標	駅周辺と市東側玄関口の環境整備を行うことによる交通利便性の向上と周辺地域の活性化	代表的な指標	交流センターの団体利用回数 (回)	0	(16年度)	→	24	(22年度)
			施設利用者の満足度 (%)	10	(16年度)	→	60	(22年度)
			工業団地周辺施設等利用者の満足度 (%)	10	(16年度)	→	60	(22年度)

